

保護者のみなさまへ

河内長野市立東中学校
校長 内 本 年 昭

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平素は、本校の教育活動の推進にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年4月18日に3年生対象に実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

今年度は、国語、数学、英語の3教科と生徒アンケートが実施された以外に、後日（本校は5月16日）に「英語 話すこと調査」も実施されました。どの教科も、比較的好くできていました。とくに一部の問題を除いて全体的に無回答率が低く、ねばり強く回答する生徒が多い学年の生徒たちであると言えます。

本校は、めざす学校像として「学び、交流し、発信する学校」を掲げていますが、授業で学んだことを仲間と意見交流しながら、理解したことを人に伝えられるような学びのスタイルが定着してきているように感じています。

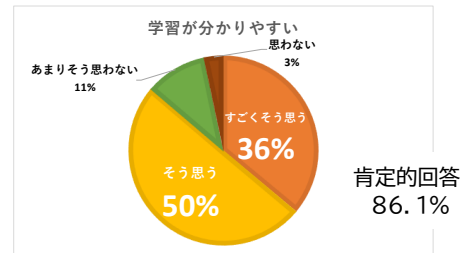
また、多くの授業で学習者用端末を活用していますが、今年度一学期に全校で実施したアンケート結果から、生徒たちは端末を用いた授業に好意的であると思われる。

なぜなら、「タブレットPCを使うと、学習が分かりやすいと感じる」という設問に肯定的な回答をした生徒が86.1%、「タブレットPCは、自分の考えや意見を友達と交流することに役立っていると感じる」という設問に肯定的回答をした生徒が89.0%いたからです。

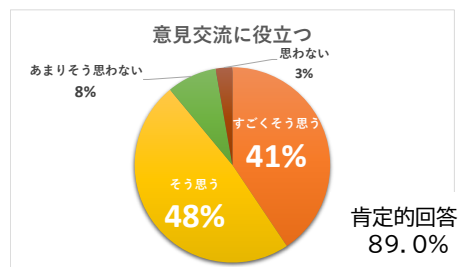
今年度、本校は大阪府からスマートスクール実現モデル校に指定されておりますし、生徒たちのこのような実態もふまえ、学習者用端末を有効活用した教育活動を今後も展開していく所存です。

なお、本調査により測定できるものは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動全体においてはテストで測れない“非認知能力”を育むことなども念頭に、教育活動を続けてまいります。

タブレットPCを使うと、
学習が分かりやすいと感じる。



タブレットPCは、自分の考えや
意見を友達と交流することに
役立っていると感じる。



学力調査の概要

国語

概要

「評価の観点」「学習指導要領の領域」「問題形式」の分類のほぼ全ての項目で、本校は全国や府に比べて高い正答率になっている。

また、無回答率が全国や府に比べて低く、意欲的に解答しようとする姿勢がみられる。とくに「思考力・判断力・表現力等」に該当する問題についての正答率が高く、記述式問題の正答率も、府・全国の平均を大きく上回った。

全15問中、唯一正答率が府・全国の平均正答率を下回ったのは[2]一で、「『落胆する』の意味として適切なものを選択する」という問題であった。心情をくみとる文章にもっとふれていく必要があると思われる。

特に成果が見られた問題例

- [2]二（意見と根拠の関係） 府比 +6.1 全国比 +2.5
- [3]四（根拠を明確にして意見を伝える） 府比 +14.3 全国比 +11.7
- [4]三（文章構成、表現方法） 府比 +13.9 全国比 +11.3

特に課題が見られた問題例

- [2]一（事象や行為、心情を表す語句の理解） 府比 -2.3 全国比 -3.1

数学

概要

「評価の観点」「学習指導要領の領域」「問題形式」の分類のほぼ全ての項目で、本校は全国や府に比べて高い正答率になっている。

また、無回答率が全国や府に比べて低く、意欲的に解答しようとする姿勢がみられる。課題としては、記述式問題の正答率が低いところである。普段の授業から、自身の解答を言葉や式で説明できる力をつけさせられるような問題に取り組んでいく必要がある。

特に成果が見られた問題例

- [6](2) 事柄が成り立つ理由を説明する問題 府比 +11.4 全国比 +10.2
- [2] 数と整式の乗法の計算 府比 +7.5 全国比 +8.9

特に課題が見られた問題例

- [7](1) 四分位範囲の意味を理解する問題 府比 -3.1 全国比 -5.8

概要

「評価の観点」「学習指導要領の領域」「問題形式」の分類の全ての項目で、本校は全国や府に比べて高い正答率になっているが、正答率が50%を満たさない問題も多く、特にまとまりのある文章を書く問題が11.3%と、非常に低い正答率となっている。

授業でのライティング指導の充実と工夫が必要である。

特に成果が見られた問題例

特筆すべきものはないが、英文をつくる問題は正答率、無解答率ともに、全国や府に比べて好成绩であったこと。

- 8 (2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く

府比 +9.5 全国比 +10.8

- 9 (1) ② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

府比 +19.9 全国比 +22.8

- 9 (2) メールの英文を依頼する表現に書き換える

府比 +11.9 全国比 +11.8

- 10 学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く

府比 +3.0 全国比 +3.9

特に課題が見られた問題例

府や全国と比べると成果が見られるので上にも挙げたが、以下の2問は、まだまだ正答率が低いので課題である。

- 8 (2) 正答率 30.3% 10 正答率 11.3%

また、「話すこと」調査では、全問不正解者が半数近くを占め、スピーキング力を伸ばす指導の改善と工夫が必要である。

全問不正解率 44.7%



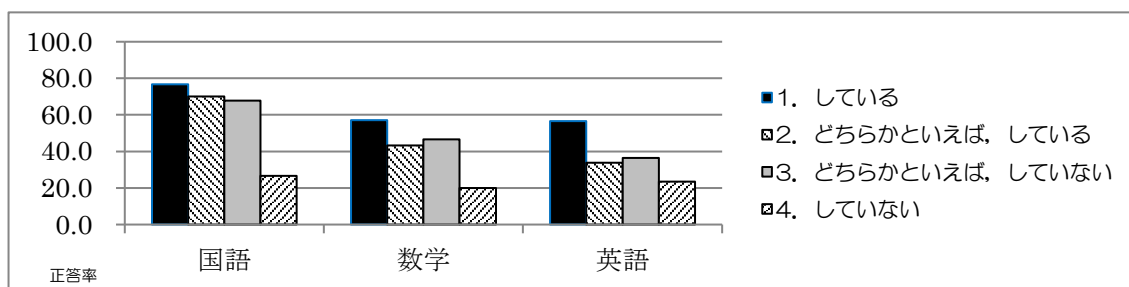
学習状況調査の概要

生徒アンケート＜全国との比較＞（主な質問項目の肯定的回答の割合で、有意差があると考えられるもの）

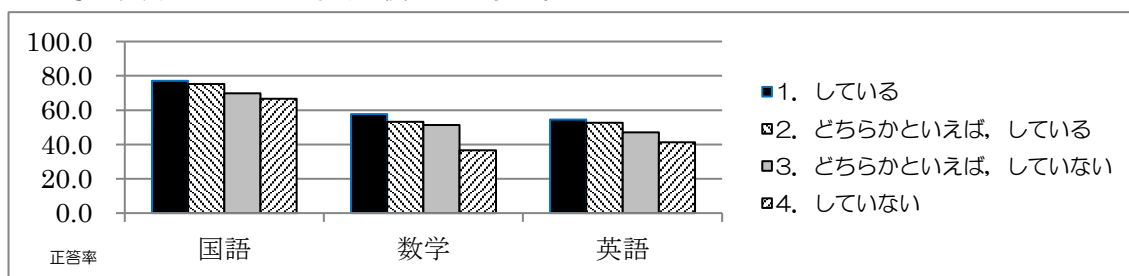
質問項目	全国	本校	差
①1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。（週3回以上の割合）	61.1	83.7	+22.6
②英語の授業の内容はよく分かりますか。	63.9	78.0	+14.1
③国語の授業の内容はよく分かりますか。	80.0	90.7	+10.7
④数学の授業の内容はよく分かりますか。	73.3	83.7	+10.4
⑤困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	66.4	75.9	+9.5
⑥学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（10分以上の割合）	49.4	30.5	-18.9

クロス集計（主な質問項目を抜粋しています。）

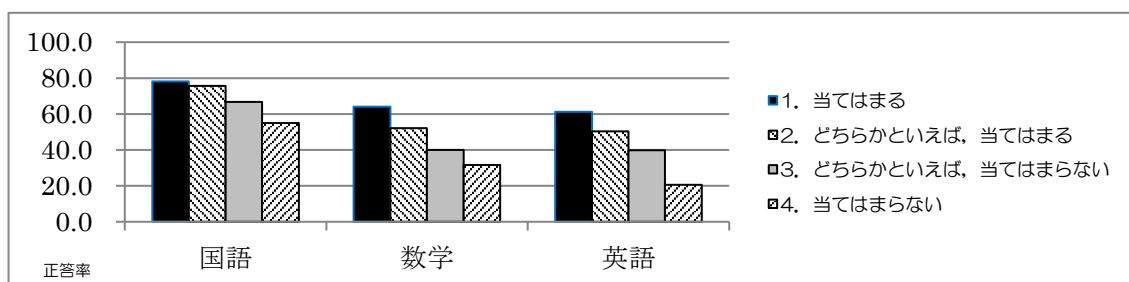
1 朝食を毎日食べていますか。



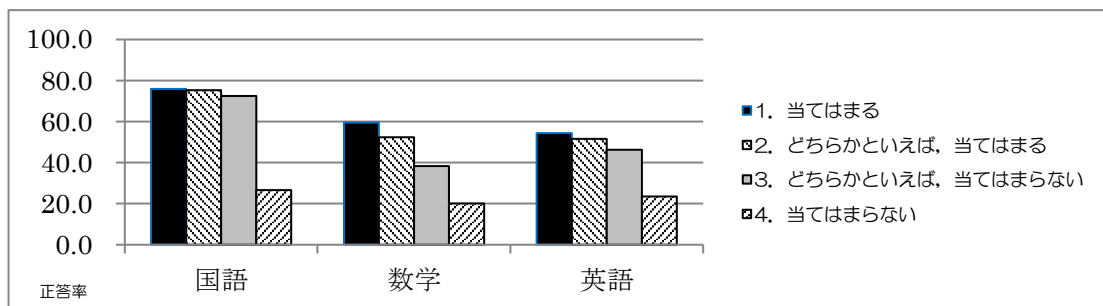
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



3 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



4 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



概要

学力調査では、全ての教科において、大阪府および全国の平均を上回っており、過去5年間の経年変化を見ても、その差は広がっている。クロス集計（学習状況調査の質問項目と、各教科の平均正答率との関係を見たもの）によると、日々の生活習慣（「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」等）と学力には密接な相関関係が見られる。また、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問項目でも有意差がある。学習指導要領における観点別学習状況の評価項目の1つ、「主体的に学習に取り組む態度」の育成が重要であると言える。さらに、「先生は、あなたのよいところを褒めてくれていると思いますか」という質問項目でも、学力と強い相関関係があることから、教師と生徒との関係性もより大切にしていきたい。

特に成果が見られたアンケート項目例

昨年度同様、授業内でのICT機器の使用頻度において、全国平均を大きく上回った。（生徒アンケート参照）授業の資料として、画像や動画を活用するのはもちろん、生徒同士の意見交換や、eライブラリやロイロノートでの課題提出においてもタブレットを日常的に使用しており、それが結果として表れた。

各教科の「授業の内容がよく分かりますか」という質問では、どの教科も肯定的回答の割合が全国平均を大きく上回っており（国語+10.7ポイント、数学+10.4ポイント、英語+14.1ポイント）、授業研究や教科会議の充実の成果として、各教科の正答率の向上につながった。

また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問項目においても、全国平均より9.5ポイント上回っており、学校生活全体を通して、子どもたちとコミュニケーションをとることに努めてきた我々としては喜ばしい結果であり、今後も子どもたちにとって良き理解者であり続けたいと思う。

特に課題が見られたアンケート項目例

課題が見られた項目は、読書時間の少なさである。普段、10分以上読書している生徒の割合は、全国平均よりも18.9ポイントも少なかった。若者の読書離れが進んでいると言われているが、本校の生徒はそれが特に顕著に表れていることが分かった。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

本校は今年度、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体化に向けた授業づくり」を校内研究テーマとしており、その実現に向けて、①支援教育の視点を取り入れた「わかる授業づくり」の研修、②ICT 機器の有効な活用方法についての研修に取り組んでいます。①については、インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン、合理的配慮等を踏まえた上で、すべての子どもたちにとって「わかる授業」をめざしています。②については、本年度、本校は大阪府教育委員会よりスマートスクール実現モデル校として認定されており、より効果的な ICT 機器の活用方法についての研究を重ねています。先述の通り、本校では、授業における ICT 機器の使用頻度に関しては、全国平均を大きく上回っていますが、「授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、ICT 機器を勉強のために使っていますか」という質問項目では全国平均とあまり差がない結果であったので、家庭での学習活動においても、より効果的な活用方法がないかを検討し、提案していきたいと考えています。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

まずは毎時間の授業を大切にしてください。分からないところがある時は、そのままにせず、先生や友だちにすぐに聞くようにしてください。また、家庭では、時間を決めて学習する習慣を身に付けてください。家で学習する習慣が全くない人は、1日10分からでもいいので机に向かうようにしてください。

また、読書の習慣も身に付けてください。自分や自分の周囲の人たちだけの考えや経験だけでは限界があります。読書を通じて、多様な価値観に触れ、見識を深めることができます。結果的に、読書は自分のためだけでなく、自分以外の人を守ることにもつながるのです。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

学習意欲は、子どもの自尊感情と大きく関係していると言われています。兄弟姉妹や友だちと比べるのではなく、その子自身の成長や頑張りを認めてあげてください。また、先述の通り、生活習慣と学力にも強い相関関係があります。毎日の朝食や起床就寝時刻、テレビやゲームの時間等、ご家庭での生活リズムが大変重要です。家族でのコミュニケーションを大切にしながら、必要に応じて、各ご家庭でルール作りをするなど、ご配慮をお願いします。今後とも、学校教育に対してご理解とご協力をよろしくお願い致します。